

事業区分	事業名	事業概要	事業目的 (事業化に至った経緯)	事業実施		全体 事業費 (億円)	事業進捗率(%) (事業費ベース)			費用 便益比 (B/C)	河川整備計画事業内容 (残事業内容)	事業進捗の見通し	対応方針(案)
				採択 年度	完了 予定 年度		事業費	工事	用地 ・補償				
河川	大根川河川改修事業	事業費：93.9億円 延長：3,800m 築堤：89.9千m ³ 掘削：124.6千m ³ 護岸：31.5千m ² 橋梁：11橋 井堰：1基 排水機場：1基	大根川の下流約3.0km区間は河床勾配が約1/2,000程度の緩勾配で堤防高は低く、本川飯江川の影響も重なって氾濫が度重なり、家屋や農作物に被害をおよぼしている。平成2年7月の豪雨では破堤や溢水及び護岸決壊等の河川災害に伴い床上浸水244戸、床下浸水927戸(飯江川水系全体)におよぶ浸水被害を被った。このような被害を未然に防ぐために1/30程度の洪水に対して安全に流下できるよう河川改修を行い、治水安全度の向上を図ることを目的としている。	H7	H37	93.9	45.7	45.1	69.7	1.51	残事業費：50.8億円 延長：2,800m 築堤：87.3千m ³ 掘削：70.2千m ³ 護岸：18.0千m ² 橋梁：8橋 井堰：1基 排水機場：1基	前回再評価時から事業は順調に進捗している。平成37年度の完成を目指し、計画的に事業進捗を図り、速やかに事業進捗が図れるよう予算の確保に努める。	矢部川水系では、過去に多くの浸水被害が発生しており河川改修を進めているところで、近年の降雨傾向から洪水発生回数の増加が予想されるなど洪水対策の必要性が高まっています。今回、法定計画である河川整備計画の策定に伴い本事業を整備実施河川に位置付け、継続実施とし、大根川河川改修事は平成37年度の事業完成を目指します。
河川	沖端川河川改修事業	事業費：120.7億円 延長：10,440m 築堤：64.2千m ³ 掘削：282.7千m ³ 護岸：61.9千m ² 橋梁：13橋 井堰：1基	沖端川沿川一帯の住民の資産を洪水から守るため、1/100の洪水の安全な流下を図る河川改修を実施する。 なお、これまでの改修により、築堤・護岸の整備とともに多数存在する橋梁の改築を進めているが、未だ、1/50程度の洪水に対して流下能力が不足する区間が存在し、矢部川本川との治水上のバランスが十分に確保されていない状況にある。したがって、事業効果の早期発現を目指すため、当面目標とする治水安全度として1/50程度の洪水の安全な流下を図ることとして、流下断面の不足する区間について、護岸・掘削、及び洪水時の流下	S44	H43	120.7	63.0	62.2	92.3	28.97	事業費：44.6億円 延長：6,522m 築堤：31.3千m ³ 掘削：137.2千m ³ 護岸：43.9千m ² 橋梁：3橋 井堰：1基	今回、事業完成年度を平成43年度に見直したが、すでに用地買収が9割以上完了しており、今後は予算を重点配分することにより、順調な進捗が見込める。	矢部川水系では、過去に多くの浸水被害が発生しており河川改修を進めているところで、近年の降雨傾向から洪水発生回数の増加が予想されるなど洪水対策の必要性が高まっています。今回、法定計画である河川整備計画の策定に伴い本事業を整備実施河川に位置付け、継続実施とし、沖端川河川改修事業は平成43年度の事業完成を目指します。
河川	塩塚川河川改修事業	事業費：117.3億円 延長：3,470m 掘削：62.4千m ³ 護岸：27.8千m ² 橋梁：7橋 井堰：1基	塩塚川は、西鉄鉄道橋などの河積狭小箇所が洪水の流水を阻害し、昭和28年6月出水をはじめ、近年では、平成7年4月、平成7年6月、平成9年11月等度々被害を受けている。このため、1/30程度の洪水に対して安全に流下できるように河川改修事業を行い、治水安全度の向上を図ることを目的として、昭和41年度より塩塚川広域一般河川改修事業に着手し、概ね30年に1回程度の洪水が安全に流下できる河川の整備を行っている。	S41	H48	117.3	31.4	27.4	70.0	4.90	残事業費：80.5億円 延長：3,470m 掘削：47.6千m ³ 護岸：22.8千m ² 橋梁：3橋	今回、事業完成年度を平成48年度に見直したが、すでに用地買収が約7割程度完了しており、今後は予算を重点配分する事により、順調な進捗が見込める。	矢部川水系では、過去に多くの浸水被害が発生しており河川改修を進めているところで、近年の降雨傾向から洪水発生回数の増加が予想されるなど洪水対策の必要性が高まっています。今回、法定計画である河川整備計画の策定に伴い本事業を整備実施河川に位置付け、継続実施とし、塩塚川河川改修事業は平成48年度の事業完成を目指します。
河川	沖端川地震高潮対策事業	事業費：72.6億円 延長：4,785m(両岸) 築堤：61.1千m ³ 護岸：17.3千m ² パラペット：4,785m 橋梁：1橋 陸開門：24橋	沖端川有明地震高潮対策事業は、1956年(昭和31年8、9月)、1959年(昭和34年9月)と相次ぐ台風による高潮・波浪による被害から、河口地域一帯の住民の生命・資産を守るため、伊勢湾台風級の昭和34年9月14号台風が本地域に対して最悪のコースをたどった場合を想定して、昭和47年から工事着手している。	S47	H33	72.6	77.6	74.7	83.6	12.59	残事業費：16.3億円 延長：4,785m(両岸) 築堤：17.0千m ³ 護岸：11.7千m ² パラペット：4,665m 橋梁：1橋 陸開門：20基	今回、事業完成年度を平成33年度に見直したが、すでに用地買収が8割以上完了しており、今後は予算を重点配分する事により、順調な進捗が見込める。	矢部川水系では、過去に多くの浸水被害が発生しており河川改修を進めているところで、近年の降雨傾向から洪水発生回数の増加が予想されるなど洪水対策の必要性が高まっています。今回、法定計画である河川整備計画の策定に伴い本事業を整備実施河川に位置付け、継続実施とし、沖端川高潮対策事業は平成33年度の事業完成を目指します。
河川	塩塚川地震高潮対策事業	事業費：154.0億円 延長：8,380m 築堤：21.4千m ³ 掘削：403.6千m ³ 護岸：36.2千m ² パラペット：8,380m 橋梁：1橋 水門・樋門：18基	塩塚川河口は、昭和34年の台風14号での高潮被害をはじめ、それ以前の昭和31年8月、昭和31年9月等度々高潮被害を受けている。このため、伊勢湾台風級(昭和34年の台風14号)の高潮、波浪による被害から、河口地域一帯の住民の生命・資産を守るため、昭和49年に有明高潮対策事業に着手している。	S49	H38	154.0	56.5	49.0	95.0	4.83	残事業費：67.0億円 延長：8,380m 築堤：6.5千m ³ 掘削：291.6千m ³ 護岸：11.2千m ² パラペット：3,355m 橋梁：1橋 水門・樋門：9基	今回、事業完成年度を平成38年度に見直したが、すでに用地買収が約9割程度完了しており、今後は予算を重点配分する事により、順調な進捗が見込める。	矢部川水系では、過去に多くの浸水被害が発生しており河川改修を進めているところで、近年の降雨傾向から洪水発生回数の増加が予想されるなど洪水対策の必要性が高まっています。今回、法定計画である河川整備計画の策定に伴い本事業を整備実施河川に位置付け、継続実施とし、塩塚川高潮対策事業は平成38年度の事業完成を目指します。